



地震発生！ そのときの備えはできていますか？

8月30日～9月5日は防災週間です



写真は昨年の各自主防災会訓練の様子

地震はいつ発生するかわかりません。私たちは、常に危険と隣り合わせで生活をしています。「自分の住むところはまだ平気だろう」という油断が多く、命を奪うことになりかねません。災害の発生を抑えることはできませんが、被害を軽減させることはできます。被害を最小限に抑えるためには、災害に対する心構えと適切な初期行動、地域での助け合いが必要です。皆さんもこの機会に、地域や家庭での防災対策についてあらためて考えてみましょう。

環境防災課 ☎84-0314

●災害により大きな被害が出
ています

ここ数年、日本国内で大きな自然災害が続いています。6月14日には、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード7.2、最大震度6強の「岩手・宮城内陸地震」が発生しました。

●開成町も地震の恐れが

私たちの住む開成町に多大な影響を与えると思定される地震として、神奈川県西部地震、東海地震、南関東地震ならびに神縄・国府津―松田断層地震があり、いずれも地震発生時の切迫性が指摘されています。

特に、近い将来、地震が発生する確率が高いとされる「神縄・国府津―松田断層」は、すぐ近くにあり、この断層により想定される地震の規模はマグニチュード7.5で、今後30年以内(基準日2006年1月1日)に地震が発生する確率は最大で16%と「日本」の主な活断層の中では可能

性が高いグループ」に分類されています。

●地震に強い町をつくらう！

気象庁では、平成19年10月から一般向けの「緊急地震速報」の発表を開始しましたが、震源に近いところでは、情報の提供が地震発生後となってしまいうなど、精度の限界も指摘されています。

前もって地震の予知ができれば被害を減らすことができますが、実現までには、もう少し時間が必要といわれています。また、たとえ予知ができて、地震が起きたら揺れることに変わりはありませんが、被害を最小限に抑えるために必要なのが、地震に強いまちづくりです。

そのために一番必要なのは、私たち一人一人が地震の恐ろしさを知り、正しく理解し、備えることです。まずは、家具が倒れないように壁に固定して家の安全性を高め、非常食を用意し、家族で震災時の連絡方法を話し合ったり、地域で災害時の対応を確認したりするなど、身近なことから始めてみましょう。地震が起きてからでは遅いのです。

●8月31日(日)に防災訓練を実施します

町では、神奈川県西部地震を想定した防災訓練を実施します。

「自らの身は自ら守る」との観点から、今年も自主防災会を中心とする防災対応型の訓練を行います。

今回の訓練では、新たに救助犬訓練士協会の協力により、救助犬を使った救出訓練を、延沢自主防災会で実施します。また、倒壊家屋からの救出訓練を、円中自主防災会で実施します。

想定は震度6弱
午前8時に震度6弱の地震が発生したとしてサイレンが鳴ります。

●子どもたちも参加を

幼稚園、小学校、中学校では、年に数回、地震や火災に対する避難訓練や防災訓練を実施していますので、学校などにおける子どもたちの避難行動は、かなり身につけています。

しかし、子どもたちが学校にいる時間は、一日の生活時



※「防災ガイド」や「町民カレンダー」などで、避難場所や地震に対する安全対策をよく確認しましょう。

※防災ガイドは環境防災課で配布しています



備えあれば憂いなし 家庭で役立つ防災情報



No.3

大地震の備えと点検を

家庭でもできる大地震への備えや対策をこの時期に再点検しておきましょう。

危機管理担当 参事
小嶋 吉治

①非常用飲料水の保管

水道設備が停止した場合に備えた飲料水の確保を日ごろから三日分ぐらい(一人一日3リットルを目安)は用意しておきましょう。水は避難先でも必要です。

②消火水の確保

家屋付近の水路の流れが途絶えることも想定されます。火事が発生した場合、初期消火により延焼の拡大を防ぐことが重要です。ふろの残り湯など、非常用として確保しておきましょう。

③救助器材の活用

倒壊した家屋に取り残された人を救出するには、家庭で使用または保管されている資器材(車のジャッキ、大ハンマー、大ボール、スコップ、ロープなど)や、農業用のチェーンソーなどが威力を発揮します。

④応急救護品の備え

医療機関が混乱し、すぐに治療を受けられない場合、けがの人の救護のために必要です。

⑤家族との連絡方法を確認

家族が遠方にいる場合があります。日ごろから帰宅方法や避難先の確認をしておきましょう。特に遠距離の通勤・通学の場合は、ご注意ください。



阪神・淡路大震災の様子(筆者撮影)

環境防災課
☎84-0314